

お知らせ

■発行:医療法人青木会 ■発行人:青木悟
■編集者:臼杵壮志 ■編集:広報委員会
■内容に関するお問い合わせは地域連携室まで
TEL:048-423-0293

令和二年 新年会

各事業所にて、趣向を凝らした
行事・装飾がされました!!

青木中央クリニック
通所リハビリセンター



リハビリの家 川口元郷

リハビリの家 東浦和



新入職員(常勤)のご紹介

青木医院

大田 麻由美(准看護師)
田澤 真美(事務職)
鈴木 千絵(リハビリ助手)

青木中央クリニック

加々見 詩乃(理学療法士)
田口 仁美(調理師)

あおぞら中央

檜山 寧恵(介護福祉士)

あおきさん家浦和南

中村 豊美(介護福祉士)

訪問看護リハビリテーションあおぞら

佐藤 巴奈子(看護師)

よろしくお願いいたします!!

私たちは 地域のみなさまの 良質で安心・安全な 医療・介護へのために「技」と「心」で応え
全ての人が満足し納得できる 医療・介護を提供いたします。

あおきだより

2020.2月 発行

Vol.
23

第4回

青木事例発表会開催!



令和2年1月30日に青木中央クリニック 通所リハビリセンターにて、「第4回青木事例発表会」を開催しました。この発表会は毎年、各部署・事業所の取り組みで得られた知見を共有し、より良い医療・介護・生活サービスを提供することを目的としておこなっています。当日は青木会職員だけでなく、医療・介護関係の皆様にもご来席いただき、計144名にご参加いただきました。

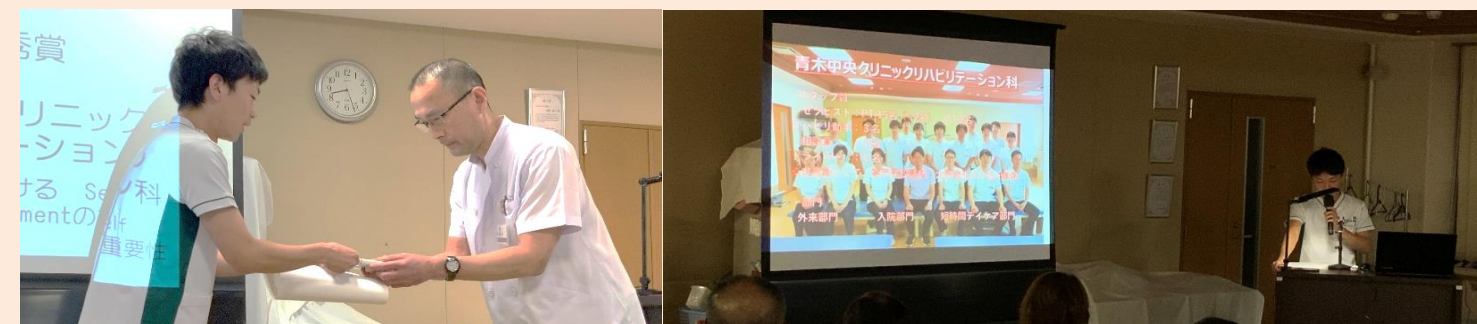
当日は全7題の発表があり、その中で青木中央クリニック リハビリテーション科 理学療法士 関 洋亮さんが発表した「外来リハにおける Self Exercise Managementの重要性」が最優秀賞に輝きました。

最優秀賞

『外来リハにおける Self Exercise Managementの重要性』

青木中央クリニック リハビリテーション科 理学療法士 関 洋亮

【概要】リハビリの成果向上(治療期間の短縮)を目的に、新たなself exerciseを作成し、疾患部位別にパンフレットを作成した。併せてセルフチェックシートを配布し、患者様が主体となって取り組めるシステムを導入した。その結果、以前よりも平均治療期間を約30日短縮することができた。これを継続し、患者様、地域からの信頼を高め、選ばれ続ける医療機関を目指す。



どの発表も日頃のサービスの中での前向きな取り組みがみられるものでした。今後も患者様・利用者様・ご家族様・職員の全てに嬉しい取り組みを実践していきます!

その他の演題についても、見開きで紹介します!

第4回青木事例発表会 演題のご紹介

『訪問看護ステーション(リハビリテーション)における利用者満足度調査結果報告』

訪問看護リハビリステーションあおぞら

当サービスをご自宅で利用している120名に対し、アンケートをおこなった。「心身の変化」については70%以上の方から、4～5点(5点満点中)の評価をいただいた。一方「当方からの説明」については平均3.8点であった。この点について分かりやすく説明できるよう事業所内で検討し、利用者様の「やる気」を継続させる工夫をしながらサービスを提供していく。



『病棟における転倒転落報告書の集計結果から見えたこと～今後の課題について～』

青木中央クリニック 看護部病棟部門

当院の入院患者様の多くが後期高齢者であり、転倒・転落が発生している。転倒・転落専用の報告書を作成し、その内容を詳しく分析した。事故が発生した患者様の半数に入院時から認知症やせん妄状態がみられ、危険認識能力の低下がみられた。また時間帯や入院病日、服薬内容が影響している可能性がわかった。



『事務的返戻ゼロを目標とした対策とその効果について』

青木中央クリニック 医事課

請求業務における登録情報の誤りによって、審査機関から差し戻されるものを事務的返戻とよぶ。当院における事務的返戻の件数・内訳を調査し、その対策をおこなった。課内の配置変更、職員間の連携により担当職員の負担を軽減した。また個人のスキルアップをしていくことで、事務的返戻の減少及び保険制度の複雑化への対応を図っていく。



『当施設におけるパーキンソン・デイケアの紹介』

青木中央クリニック 通所リハビリセンター

2019年10月にパーキンソン病の方を対象とした専門的なデイケアを開設した。プログラムとして、バランス訓練と筋トレを組み合わせた「ロックステディボクシング」、可動域訓練・バランス訓練・認知能力の向上効果をもつ「VRTトレーニング」などをおこなっている。生活の中で転倒を繰り返す、傾眠・無動がみられる利用者様も、安定して運動を実施することができている。



『集団リハビリの効果判定』

青木医院 通所リハビリセンター

当施設の利用者様の身体機能レベル、施設内での過ごし方、ご家庭での過ごし方について、9か月間に渡って評価をおこなった。結果として、利用者様の身体機能を維持することができていることを確認した。しかし、自宅での運動習慣や負荷量が乏しいことがわかった。今後はこの点を改善することで活動量を増やし、介護度の軽減を目指していく。



特別賞

『リハビリを通じ、自宅復帰された入居者についての報告』

リハビリの家川口元郷・居宅介護支援事業所あおぞら元郷

腰椎圧迫骨折を呈した90歳台、独居の女性が当施設に入居された。週2回の訪問リハビリ、入浴介助、福祉用具の調整のケアプランを作成。また多職種、ご本人様、ご家族様と相談をしながら、ご自宅の調査、外出練習、試験外泊といった取り組みをおこない、入居から半年後にご自宅へ帰ることができた。さらに半年後には、600mほど離れたスーパーまで一人で買い物に行けるようになった。



青木会では 事例発表会をはじめ、年間を通じて様々な研修を実施しております。皆様のご期待に応えられるよう、これからも研鑽してまいります！



＜リハビリの家 西浦和(さいたま市南区)＞災害への取り組み紹介

令和元年 台風 第19号

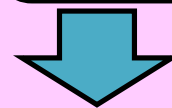
2019年10月12日(土)～13日(日)にかけて関東地方や甲信地方、東海地方、東北地方で記録的な大雨となり、各地に甚大な被害があった事は記憶に新しいことと思います。

当法人では「災害対策本部」を設置し、避難を実施いたしました。ここで簡単ではありますが、当日の取り組みを紹介いたします。

10月12日

★災害対策本部設置 (法人本部)

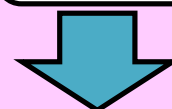
11:00 法人本部長より水害危険への避難準備指示、受入れ可能事業所の確認、人員配置。



11:12 さいたま市警戒レベル3

避難警報

12:00 ※水害に伴う避難決定指示(河川水位状況、開始時間の確認)



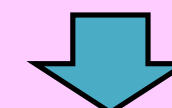
15:30 さいたま市警戒レベル4

避難勧告

17:30 リハビリの家西浦和から、入居者様全員の誘導を開始

20:00 入居者34名、無事に避難誘導が全て完了

10月13日



10:14 さいたま市避難指示・避難勧告が全て解除
→ 帰所準備・誘導開始

13:30 リハビリの家西浦和へ無事到着
入居者様全員 到着完了(安否確認)



避難先での様子
【青木中央クリニック(川口市)にて】

リハビリの家西浦和では水害リスクを一番に考え、法人内での連携により、入居者様全員の避難を実施いたしました。避難準備やタイミングなど課題は残りましたが、安全に避難を行いました。今後も入居者様の安全、地域との繋がりを大切に、皆さまに安心をお届けできる介護を行ってまいります。 リハビリの家西浦和 施設長 大岩 良